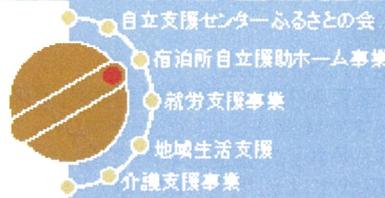


2009.03.05
【第2号】



これはHTML形式
のMAILです。
オンラインで無い場合
は画像が表示され
ない可能性があります。

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

1. 全体研修報告『自立支援プログラムをめぐる諸問題』
2. ふるさとの会2009年新年会のご報告
3. 全国障害者生活支援研究会(サポート研)に参加して
4. ホームレス支援全国ネットワークよりの提言
5. 東京都障害者地域移行促進強化事業研修会
6. 今月のボランティア

1.全体研修報告『自立支援プログラムをめぐる諸問題』静岡大学布川日佐史教授

2009年初頭のふるさとの会全体研修は、1月10日『自立支援プログラムをめぐる諸問題』と題し、静岡大学布川日佐史教授の講演で幕開けをしました。

労働政策のなかで、「雇用保障政策と福祉政策との交錯する領域」を研究されている布川先生には、ふるさとの会の「苦情解決第三者委員会」の委員としてもお世話になっています。

講演に先立って、ふるさとの会就労支援事業部責任者の小林から、昨年12月に開設した就労支援ホーム『2丁目ハウス』、『なづな』、『はるかぜ』の事業内容とケース報告をしました。

福祉事務所からの紹介で入居した方々は、30代を中心に、軽度の知的障害や発達障害等「見えない障害」を抱えた元路上生活者や、「ネットカフェ難民」等の居住不安定型就労を経た方、あるいは母子世帯、外国人労働者など、まさにホームレス予備軍といわれる方々です。このような入居者に対し、就労支援ホームでは住む所の提供と安心できる生活、就労阻害要因を抱える方々へのケア付き就労、生業扶助を活用した就労支援プログラムを提供し、アパート転宅、自立までの道のりを共に歩みはじめました。

布川先生のお話は、地元浜松市の雇用情勢にも触れながら、「就労可能な生活困窮者への支援システムつくり」として、居宅の確保と保護に入ってからの就労支援をどう準備するかという問題からはじまりました。生活保障の基本とは、居住支援を含む所得保障に、自立のための社会サービスをリンクさせることであり、「生活保護というシステムはお金を出すことと援助をすることの両方を掲げている」とおっしゃるときの「援助」がまさに問われているのではないかでしょうか。

布川先生が紹介された釧路の事例では、福祉施設や動物園などのボランティアなどいろんな体験をてもらいながら、日常生活・社会生活のつながり、生きていく力を回復しつつ、徐々に就労の度合いを高めていく援助がはじまっているそうです。いきなり就労ということではなく、その前段での自立支援プログラムとの連携など福祉的な援助の重要性を改めて考えさせられました。

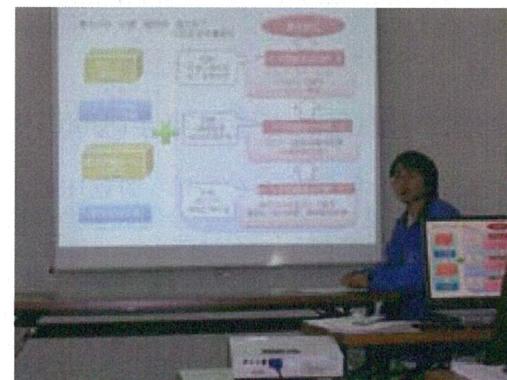
問題はそれをどのような制度に結び付けていくかです。日常生活支援や社会生活支援などのニーズが顕在化してきたならば、それを制度化することが課題になります。社会的なつながりの援助をどのような扶助で保障するのか、たとえば孤立を防ぐ基盤という意味で住宅扶助に上乗せするなど、具体的な議論を広く社会的に呼び掛けていきたいと思います。

多くの興味深いお話を伺いながら私自身も現在配属されている東京ジョブ・ステーションの多くの対象者の方々のケースを思い、いかに制度と人が互いに生かしあえるものであるかと考えてしまいました。生活保護を受給し始め生き活きとし始める方、そして自分のペースで安心して仕事を始める方、社会参加を始める方、『生活保護受給になったよ、お世話になったよ、有難う』、と来所する方々、所内一同が一番ほっとした雰囲気になります。就労支援の良きエンドでありその方の新たなスタートを感じるところです。

布川氏のお話を頂きながら制度と人が社会の中で手を繋いでいるそのようなイメージが浮かんできました。(佐藤信子)



『社会的なつながりの中で生きていくための
自立支援サービス』
の制度化がこれからの生活保障の課題



就労支援ホームの利用者像と取組を報告

2.ふるさとの会2009年新年会のご報告

2月11日ふるさとの会は毎年恒例の新年会を行ないました。

会場はふるさとの会本部3階で、まず冒頭に東京都福祉保健局保護課指導係長の稻生氏より、「生活保護と「自立援助ホーム」に関する所感」というテーマで講演をしていただきました。

講演に先立ち、理事長の佐久間より、そしてふるさとの会運営の宿泊所及び自立援助ホームにおける利用者像(年々利用者の「重篤化」が顕著となり、現状では利用者の約6割が要介護高齢者、3障害を含めると約9割となっている)と、生活保護による所得保障と社会サービスのリンクというふるさとの会が担う支援の構造を報告させていただきました。

それを受けたの稻生さんのお話。何はともあれ路上生活者が生活保護を受け、「畠の上」で生活するための「器」として宿泊所が当初に果たした役割。利用者の多様なニーズと自立概念の広がりにともなう自立支援プログラムの登場を受け、空間提供ではなく積極的な社会サービスの導入に対応をつけるべく「生活保護法上の施設たる保護施設、その他適切な施設」として宿泊所を再編しようとした試みとその限界。平成16年に都庁が発表した「生活保護をかえる東京提言」における「自立支援ホーム」の提案と、現状でふるさとの会ホテル三晃等が果たしている役割。最後には、行政の用意した制度に乗っかるのではなく、自立支援に「有効な企画書を書くことができるNPO」としてふるさとの会にかける期待についてお話をいただきました。

講演後には質疑応答がなされ、療養病床のスクラップ化や診療報酬の改定など長期療養環境が劣悪になる中、患者の地域生活における受け皿が求められる一方で、一部保護施設が機能不全に陥っており、支援機能のある住居が重要であること(浅草病院本田医師)、「対策から政策へ」の転換が求められている状況(立教大学高橋教授)など重要な論点を共有しました。

講演会後には、新年の懇親会をおこないました。外部から40名近い参加があり、各方面の方々が担当事業を越えて交流をされていました。懇親会の締めの挨拶は日本NPOセンター代表理事の山岡さんにお願いしました。稻生さんが講演で最後に触れられた「有効な企画書を書くことができるNPO」という呼びかけに、NPO法ができて10年が経過した今、それぞれのNPOがいかに応えていくかが重要であるとのお言葉をいただきました。新年会を通じて、改めてふるさとの会を応援してくださる方々のネットワークの広がりと深さを知り心強く感じました。

ふるさとの会職員一同一丸となり皆様のお力を借りしながら更なる躍進、発展を目指して行きたいと思っております。

(松川恵子)



東京都保護課稻生氏の講演



当会代表理事の佐久間よりご挨拶



講演後の質疑応答。昨今の厳しい現状とふるさとの会への期待を深く受け止めました



懇親会ではたくさんの叱咤激励をいただきました

3.全国障害者生活支援研究会(サポート研)に参加して

1月31日(土)・2月1日(日)の2日間、新宿NSビルにて、特定非営利活動法人全国障害者生活支援研究会(サポート研)主催による、第10回全国障害者生活支援研究セミナー『ほんとうの自立支援とは—本人中心の支援のありかたを問う—』が開催され、2日目の分科会では、「生きにくさの支援—『障害者福祉』は何を提供できるか」をテーマとした第2研究委員会に、サポート研理事赤平守氏、社会福祉法人紫野の会かりいほ施設長石川恒氏、ジャーナリスト佐藤幹夫氏とともに、ふるさとの会水田前代表理事が参加しました。

受刑者のなかに療育手帳をもたない障害者が数多くいるという事実から分かるように、社会で生きていくうえでなんらかのサポートが必要であるにもかかわらず、手帳未取得のために福祉の土俵にあがることもできず、周囲からの理解・協力も得られぬまま、障害・貧困・孤立・差別という負の連鎖のなかで生きにくさを抱えつつ生活していくかねばならない方々が数多く存在します。そんな「生きにくさ」を抱えた障害者の方々に対してどんな支援が必要とされているのかを考えるのが、今回のセミナーの主旨です。

まず、赤平氏による今回のテーマの主旨説明が行われた後、障害者福祉の土俵に乗ることができずにい

る障害者の方々の支援をホームレス支援として行うという立場から、水田が、ふるさとの会の取り組んでいる事業概略を説明したうえで、貧困の連鎖を断ち切るシステム作りとしての障害者支援の必要性を訴えました。その後の討論では、赤平氏が司会となって佐藤氏と石川氏、そして水田の4人による障害者支援をめぐる討論が行われ、現在の障害者福祉に求められているのは、ひととひとの関わりを重視した支援によって、それぞれの障害者に応じた安心を創り出すことで、地域での安定した生活へつなげることだという意見が共有されました。

個人的にもっとも印象に残ったのは、石川氏が、できるかぎりのことはすべてやっている、と思いつつも、自分の支援が果たして本当に本人の障害や生きにくさを理解した支援となっているのか否かをつねに自問自答しながら支援を行っている、と述べたことです。私もまた、自分の支援の仕方に対する問い合わせ振り返りを不斷に行いながら、利用者の声にしっかりと耳を傾け、なおかつ自分の声が利用者にしっかりと届くような支援をし続けていきたい、と改めて強く感じました。

(千葉 翼)



ふるさとの会の事業の中で取り組んでいる
『貧困の連鎖を断ち切るシステムづくりとしての障害者支援』を説明

4.「ホームレス支援全国ネットワーク」提言

昨今の厳しい雇用情勢のなかで、年末年始の「派遣村」を巡る動きに代表されるように多くの派遣労働者や生活困窮者が生活保護の申請を行いました。何はともあれ生活保護の受給によって所得保障を得ることを出発点とするとしても、同時に、いかにして安定した居住と生活の支援、そして就労支援を保障していくかが今後問われるのだと思います。また、生活保護以外の手段によっても自立に向かえる制度も必要とされます。

そこで、ふるさとの会も世話人団体として参加している「ホームレス支援全国ネットワーク」では、厚労省に対し、緊急雇用対策事業として全国ネットが支援の担い手となるべく「1000名雇用計画」の企画を提案しましたので、ご報告いたします。

企画内容の概略

- ① 生活保護や生活費の貸付制度によって住居の生活の安定を確保する。
- ② 住居に関しては、全国ネット加盟団体が提供する施設やアパートの紹介を行う。
- ③ 住居の確保後も、加盟団体が日常生活や医療等の支援を行い、生活の安定を図る。
- ④ 福祉関連の臨時軽易な仕事を通じての職業訓練、技能習得を行った後に、加盟団体が直接に利用者を雇い入れる。
- ⑤ 民間アパートへの転宅に際しては、加盟団体による入居保証システムを活用し、アフターケアを行う。
- ⑥ 以上のプロセスに必要な費用(雇用奨励金や訓練手当、技能習得費等)を捻出し、事業として全国ネットに委託をする。

5.東京都障害者地域移行促進強化事業研修会参加報告

1月22日(木)社会福祉法人 紫野の会 知的障害者支援施設かりいほ主催「東京都障害者地域移行促進強化事業」研修会で、「生き難くさを考える」をテーマに、ホームレス自立支援、更生保護、救護施設等関係者が、講義スタイルで支援の取り組みについて紹介を行いました。

ふるさとの会水田前代表理事も昨年10月30日に続き、ふるさとの会事業説明を行い、地域のなかで中間施設や居宅で暮らす700名を超す利用者への地域生活支援の現状を報告しました。

最近、障害者支援の方と話す機会が増えわかったことですが、障害者・高齢者・ホームレスと、ホームレスが特定の「ジャンル」として規定されて理解されているところがあり、こここの部分の誤解を地域で暮らすふるさとの会利用者像として、強調して説明を行いました。

現在、宿泊所、自立援助ホーム、グループホームに202名の方々が暮らしており、そのうち、ほぼ8割の方が、要介護認定、障害認定を受けています。その多くが、様々な福祉サービスを受ける機会を逸し、セーフティネットである生活保護の枠内で社会サービスを受けています。そこで、次のステップとして他法・他制度を活用できる方には積極的に活用できるようなシステムやコーディネートを行っていきたいと考え、特に障害者自立支援法に基づいた福祉サービスの導入を検討しており、かりいほをはじめ障害者支援の方々とのネットワークから多くのことを学んでいる最中です。

(秋山雅彦)

6.今月のボランティア

【ご報告】

○2月8日(日)、ボランティアサークルふるさとの会は、特別行事のイベントとして「折り紙大会」を実施しました。毎月第3日曜日の昼食提供のあとに催している特別行事ですが、2月・3月は都合により、第2日曜の開催となりました。折り紙の参加者は少なかったですが、参加された方は折り紙のバリエーションをひとつでも増やそうと熱心に取り組んでいました。

○2月15日(日)は昼食提供を行いました。越年の際、頂いたカンパの大根が大量にあったので、モツ煮込み丼を出しました。「うまい！」と大好評でした。喜んで頂けると作りがいもあります。モツ煮丼は初めてのメニューです。これからも提供していきたいと思います。



折り紙大会。童心にかえってつい熱中してしまいました。

【ボランティア・カンパ大募集】

●3月の特別行事は3月8日(日)、ボランティア歌手の美咲加代子さんをお招きし、「春の歌を唄おう会」を催します。敬老室の利用者の方には歌好きの方が多く、去年も歌詞カードを片手に、我こそはとマイクを握る姿が見られました。童謡・懐メロ・演歌は年配の山谷の方々にとってはまさに「一生もの」です。ボランティアの方々にぜひ盛り上げていただけたらと思います。

●3月15日(日)は昼食提供です。メニューはカレー丼か親子丼の予定です。これまで毎月第3日曜日に定期的に開催し、参加者の方々も楽しみにしている特別行事ですが、4月以降もより充実させていこうと思っております。ボランティアの方で何か一芸をお持ちの方を大募集します。月一度、敬老室の利用者の方々と一芸を通じ、交流していただけたらと思います。ご希望の方、ご連絡お待ちしております。

【お知らせ】

ボランティアサークル世話人の麦倉理事が、4月から岩手大学に赴任し東京を離れることになりました。今後も年に数回になるかとは思いますが、引き続きイベントへ参加をお願いしたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

<連絡先>

ボランティアサークルふるさとの会 (担当:町田／馬場)

TEL03-3801-0377 FAX03-3801-0881

E-mail:boranteahurusato@gmail.com

ふるさとの会HP:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031東京都台東区千束4-39-6

TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950

E-mail:hurusato@d5.dion.ne.jp

HTML:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>